

平成27年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

1. 研究の概要

プロジェクト名	地域素材を活かした造形教育の研究		
プロジェクト期間	平成 27年7月～平成 28年3月		
申請代表者 (所属講座等)	阿部 守 (美術教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	
取組方法・取組実績の概要	<p>授業時数が減少した小・中学校の図画工作と美術科における課題は、如何に今日的なテーマを子どもたちに理解させる題材を効率良く授業に活かせ、且つ、造形教育の基礎的学力を身に付けさせることができるかにあると言える。伝統的且つ基礎的な造形能力を培うことは基より、ここ20年やっと定着してきた「造形あそび」を効果的な教材とすることが急がれる。定着したとは言え、大半の現場教員がその実践に戸惑いを感じている。本プロジェクトでは、未だその基本理念が確立されていない「造形あそび」の理論的な裏付けとその教材開発を行うことで、本来この題材の持つ歴史的な意義とこれからの学校教育を主体とする造形教育の可能性を視野に入れた教材開発について研究する。小学校学習指導要領では、「材料を基に造形遊びをする活動として、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付いてつくること。」更に上学年では、「場所を活かした造形遊びの指導」が記されている。本研究では地域素材としての造形活動を考察する。自然や風土を題材とする制作活動では、コンテクストと身体との間に関係性を与える「場所と時間」に対し、素材を選定し、さらに幾層にもわたる要素を構造化することと捉える。この一連の制作プロセスを研究し、分析することは、造形あそびの理論構築に繋がるものである。生活環境をテーマとした題材では、地形、植生、水の流れ、土壌などの要素を五感を通じて場の<テクスチャー>等に表現として繋げる。感性を働かせ、創作と結びつけることが、造形あそびの真骨頂であり、図画工作・美術科を巡る造形教育の今後を支える方向性であると考えます。</p>		
研究成果の概要	<p>2015年11月の3週間にわたり、インドネシア・バンドンを舞台にその場の地域素材を活かした創作活動をおこなった。木・パティックツール・布・紙などを創作素材として現地で制作を実施し、環境・風土とヒト・空間を結び付ける制作研究をおこなった。バンドン工科大学芸術学部におけるアートプロジェクトへの参加を機会に地域素材の持つ可能性についてリサーチを展開した。そのキーワードは、「生活」であり、その芸術表現への展開力が造形教育の重要な要素であることに気づかされた。</p> <p>その制作プロセスの源には、20世紀ドイツのバウハウスにおける発想教育法にあるとの仮説を立てるに至った。次年度からは、研究分担者としてこのテーマに基づき、神戸大学 鈴木教授との共同研究をおこなう。「シュトゥットガルト・アカデミーの改革的伝統とバウハウスにおける発想法教育学の成立」と題して、東京教育大学構成学研究室の実践的な取り組みを文献・インタビュー中心におこなうことにした。地域と空間形成を扱う内容である。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について〔 <input type="checkbox"/> (該当事項) にチェック方願います。〕			
外部資金獲得申請 (予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ()	研究成果の公表方法 (予定)	<input checked="" type="checkbox"/> 学会 (国内) : <input type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等 : <input checked="" type="checkbox"/> その他 :